

わんにゃん通信

2021.3月号

段々と暖かくなってきました。天気が良いときに出かけたいのですが、考えてしまい…早く何も気にせずに出かけられるようになればいいのになあ…

今回は尿路結石についてのお話です。



尿路結石



尿路である腎臓、尿管、膀胱または尿道のいずれかに結石が形成される病気です。結石の大きさは様々ですが、血尿や痛みを引き起こしたり、膀胱炎や腎盂腎炎の原因になります。

また、尿管や尿道に結石がつまることにより、排尿することが出来なくなり、腎不全や膀胱破裂などの命にかかる病気に繋がることもあります。原因は遺伝的体質、尿路感染、食餌、肥満、飲水量の減少など様々です。

代表的な結石たち

ストルバイト

◎尿のpHがアルカリ性に傾くことで結晶化が進む

◎食餌療法で溶かすことができる



シュウ酸カルシウム

◎尿のpHが酸性に傾くことで結晶化が進む

◎食餌療法で溶かすことができない

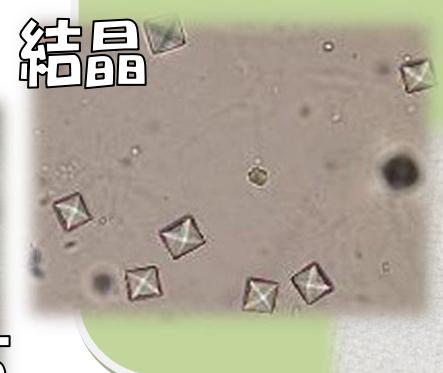


できやすい犬種にシナウザー、シーズー、ヨークシャーテリア、パグ、コーラーなどがある

結晶



結晶



結石



結石

治療 食餌療法

マグネシウムなど各ミネラル成分が調整された療法食を与え、尿の状態を整えて結石を融解させる。また新しく結石ができないように予防します。治療中は療法食と新鮮な水だけ与えるようになります。



外科手術



シュウ酸カルシウム結石など食餌療法での改善が見込めない場合や結石の数や大きさによっては外科手術での結石の摘出にすることがあります。手術後は食餌療法での管理になります。

尿路結石は再発しやすい病気です！

食餌と生活習慣で予防しましょう

①尿路結石に配慮した食事を選ぶ

②おやつに注意する

療法食を与えていても、おやつを与えると食餌で調節したバランスが崩れてしまうことがあります。おやつを与える際には先生と相談をしましょう。



③新鮮な水を飲ませるように工夫する

④おしっこを我慢させない

膀胱に尿がたまっている時間が長いと尿路結石ができるリスクに繋がります。

⑤肥満を予防する、すでに太っている場合はダイエットする

肥満による運動不足は尿路結石をつくりやすくなってしまう原因の一つです。



佐々木先生のトピックス



実際の症例の話を1つ。

結構前から頻尿しているという8歳くらいのメスのワンちゃんが来院されました。レントゲンを撮るとびっくりするくらい大きな石が3つ（右上図）…長い経過でここまで大きくなったのでしょう。尿を調べると細菌感染を起こしていたので、膀胱内に結石が出来やすい環境となっていたと思われます。

手術で摘出すると、1個当たり3cmくらいの里芋のような結石が3つ（右下図）取れました。結石鑑定によりストラバイト結石と同定されました。その後は細菌感染も治まって、膀胱炎症状（血尿、頻尿）も徐々に改善していきました。この症例では手術適応となりましたが、小さいストラバイト結石であれば食事による溶解療法ができます。ワンちゃんでもネコちゃんでも膀胱炎症状を見たら早めに受診しましょう。

